

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	青少年元気サポート事業		事業開始年度	平成20年度	作成責任者	
担当部局庁	スポーツ・青少年局		担当課室	青少年課	青少年課長 勝山 浩司	
会計区分	一般会計		上位政策	青少年の健全育成		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)			関係する計 画、通知等	青少年育成施策大綱 (平成20年12月青少年育成推進本部決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	学校教育の重要性が叫ばれる一方で、学校外における青少年教育活動は沈滞、低迷し、地域教育力の劣化や地域の大人と青少年がかかわる機会の減少等がみられることから、青少年教育活動の新たな場の開拓とプログラムの開発を行い、その成果の普及を図ることにより青少年教育活動の活性化を図る。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	活動プログラムを実施しようとする青少年団体においては、青少年団体、都道府県教育委員会、有識者等から構成される運営協議会を設け、この協議会で、活動プログラムの企画立案、運営方針等を決定し、さらには、フォーラムの開催や成果物の配布などによる成果の普及を図る。 この協議会による運営方針等に基づき、地域の青少年団体、市町村教育委員会、地域の協力者等から構成される地域実行委員会が、青少年の現代的課題に対応した活動プログラムを実施している。					
実施状況	実施団体		事業名		実施箇所 (地域)	
	(財)ボーイスカウト日本連盟		A. アウトドアチャレンジ		3	
	(財)ボーイスカウト日本連盟		B. キッズコミュニティー		12	
	(社)ガールスカウト日本連盟		C. 少女と指導者のための元気サポートプロジェクト		11	
	日本青年団協議会		D. 青年活動推進コーディネーター養成事業		4	
		合計(3団体 4事業)		30	参加者数 (人) 759 9,102 2,552 234 12,647	
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	89	90	90	未定
	執行額	-	75	86		
	執行率	-	84.3%	95.6%		
	総事業費(執行ベース)	-	75	86		
自己点検	支出先・ 使途の把 握水準・ 状況	事業実施現場への実地検査を実施するとともに、団体から提出される委託事業完了報告書、成果物により事業内容や経費の執行について確認を行っている。 特に、実地検査では、事業の運営方法や実施内容、参加者の活動状況等についてヒアリング等を行い、計画通りに進められていたことや、ほとんどの地域で計画を上回る参加者があったことを確認した。 また、経費については、委託事業完了報告書に添付される証拠書類(収支簿、見積書、納品書、請求書等)により適切な執行がなされているか検査するとともに、事業の内容、目的との整合性について確認を行っている。				
	見直しの 余地	各団体の取組みの成果を、事業終了後に事業企画評価委員会においてさらに検証を深めるとともに、全国への普及・展開を一層促進する。 また、より多くの団体から応募があるよう、公募期間の確保や公募方法にも工夫を行っていく。				
予 算 監 視 の 効 率 化						
補 記	青少年教育関係者等により構成される「事業企画評価委員会」において、活動プログラムの選定を行っている。今後は、事業の適切な実施及び推進方策等について協議し、事後評価を行うこととしたい。					

文部科学省
86百万円

諸謝金 0.0百万円
職員旅費 0.4百万円
委員等旅費 0.0百万円
庁費 1.2百万円 } を含む

【公募・委託】

A.(財)ボーイスカウト日本連盟
26百万円

【アウトドアチャレンジ】
他団体と連携しながら、野外技能の修得度を段階的に評価する制度を構築することを目指して、事業初年度である平成21年度については、ゲーム感覚で行える「手旗通信」や「もやい結び」等を検定プログラムのメニューとした「野外技能検定入門編」を実施した。

【公募・委託】

B.(財)ボーイスカウト日本連盟
18百万円

【キッズコミュニティー】
知的障害や発達障害等のある児童と健全児童とが共に自然体験活動等の体験活動に取り組むことができるプログラムの開発及び活動に関わる指導者のためのガイドブックを活用した講習会等を実施した。

【公募・委託】

C.(社)ガールスカウト日本連盟
22百万円

【少女と指導者のための元気サポートプロジェクト】
従来取組んでいなかった子どもたちのための自己肯定感を高めるためのプログラムの開発を行い、同時にそのプログラムを展開するための指導者のための研修等を実施した。

【公募・委託】

D.日本青年団協議会
18百万円

【青年活動推進コーディネーター養成事業】
従来取組んでいなかった多様な地域活動に取組もうとしている青少年団体や地域団体等の連携を推進するためのコーディネーターの養成等を実施した。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. 財団法人ボーイスカウト日本連盟 【アウトドアチャレンジ】			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑 役 務 費	ガイドブック・映像資料の作成等	11			
旅 費	会議出席旅費、指導者旅費等	7			
印刷製本費	チラシの作成等	2			
一般管理費	-	2			
諸 謝 金	指導謝金、会議出席謝金等	2			
そ の 他	賃金(事務補助)、消耗品費(コピー用紙等)、会議費(お茶代等)、借料及び損料(会場借料等)、通信運搬費(チラシの送付等)	2			
計		26	計		0
B. 財団法人ボーイスカウト日本連盟 【キッズコミュニティー】			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅 費	会議出席旅費、指導者旅費等	4			
諸 謝 金	指導謝金、会議出席謝金等	4			
印刷製本費	ジュニアリーダーハンドブック、ガイドブックの作成等	4			
賃 金	事務補助	3			
一般管理費	-	2			
そ の 他	消耗品費(コピー用紙等)、通信運搬費(ガイドブックの送付等)、借料及び損料(会場借料等)、会議費(お茶代等)、保険料(スタッフの傷害保険料等)、雑役務費(振込手数料等)	1			
計		18	計		0
C. 社団法人ガールスカウト日本連盟 【少女と指導者のための元氣サポートプロジェクト】			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅 費	会議出席旅費、指導者旅費等	10			
印刷製本費	チラシの作成等	3			
一般管理費	-	2			
借料及び損料	会場借料等	2			
諸 謝 金	指導謝金、会議出席謝金等	1			
消 耗 品 費	コピー用紙等	1			
そ の 他	賃金(事務補助)、通信運搬費(チラシの送付等)、雑役務費(写真撮影等)、会議費(お茶代等)、保険料(スタッフの傷害保険料等)	3			
計		22	計		0
D. 日本青年団協議会 【青年活動推進コーディネーター養成事業】			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅 費	会議出席旅費、指導者旅費等	8			
借料及び損料	会場借料等	3			
諸 謝 金	講師謝金、会議出席謝金等	2			
一般管理費	-	2			
印刷製本費	チラシの作成等	1			
そ の 他	賃金(事務補助)、通信運搬費(チラシの送付等)消耗品費(コピー用紙代)、会議費(お茶代)	2			
計		18	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

青少年元気サポート事業

(前年度予算額 90,005千円)

平成22年度予算額 90,005千円

1. 目的・事業要旨

学校教育や体験活動の重要性が叫ばれる一方で、学校外における青少年教育活動は沈滞、低迷している。また、地域において大人と青少年が関わる機会の減少等、地域における教育力の低下がみられることから、青少年教育活動の活性化が求められている。

このため、全国規模の青少年団体に対し、青少年教育活動の新たな活動の場の開拓とプログラムの開発を行い、その成果の普及を図ることにより、青少年教育活動の活性化を図る。

2. 事業内容・事業計画

(1) 事業企画評価委員会の開催

文部科学省が、青少年教育関係者等により構成される委員会を開催し、活動プログラムの選定及び事業の推進方策等について協議する。

(2) 青少年元気サポート事業の実施

全国規模の青少年団体からの青少年の現代的課題に対応した活動プログラムの企画提案を受け、上記事業企画評価委員会が、その中から個性・特色ある活動プログラムを選定し、文部科学省が青少年団体に実施を委託する。

【事業の委託を受けた青少年団体が行う内容】

① 活動プログラムの企画立案

青少年団体(他の団体を含む。)、都道府県教育委員会、有識者等から構成される運営協議会を開催し、活動プログラムの企画立案、運営方針等を決定する。

② 活動プログラムの実施

地域の青少年団体(他の団体を含む。)、市町村教育委員会、地域の協力者等から構成される実行委員会が運営協議会の運営方針等に基づき、青少年の現代的課題に対応した活動プログラムを実施する。

③ 成果の普及

運営協議会が活動成果をとりまとめ、フォーラムの開催や成果物の配布などにより成果の普及を図る。

(3) 委託先：全国規模の青少年団体

※委託先の選定にあたっては、ホームページで公募(約3週間)を行い、各団体から提出された企画提案書により、外部有識者による事業企画評価委員会にて審査のうえ、事業を選定し、実施団体と委託契約を締結する。

【平成21年度委託先】(申請4団体、採択3団体、採択率75%)

- ・(財)ボーイスカウト日本連盟(アウトドアチャレンジ、キッズコミュニティ)
- ・(社)ガールスカウト日本連盟(少女と指導者のための元気サポートプロジェクト)
- ・日本青年団協議会(青年活動推進コーディネーター養成事業)

【平成20年度委託先】(申請5団体、採択3団体、採択率60%)

- ・(財)ボーイスカウト日本連盟(キッズコミュニティ)
- ・(社)ガールスカウト日本連盟(少女のための元気サポートプロジェクト)
- ・日本青年団協議会(青年活動推進コーディネーター養成事業)

～委託先選定までの流れ～

文部科学省のホームページで公募開始

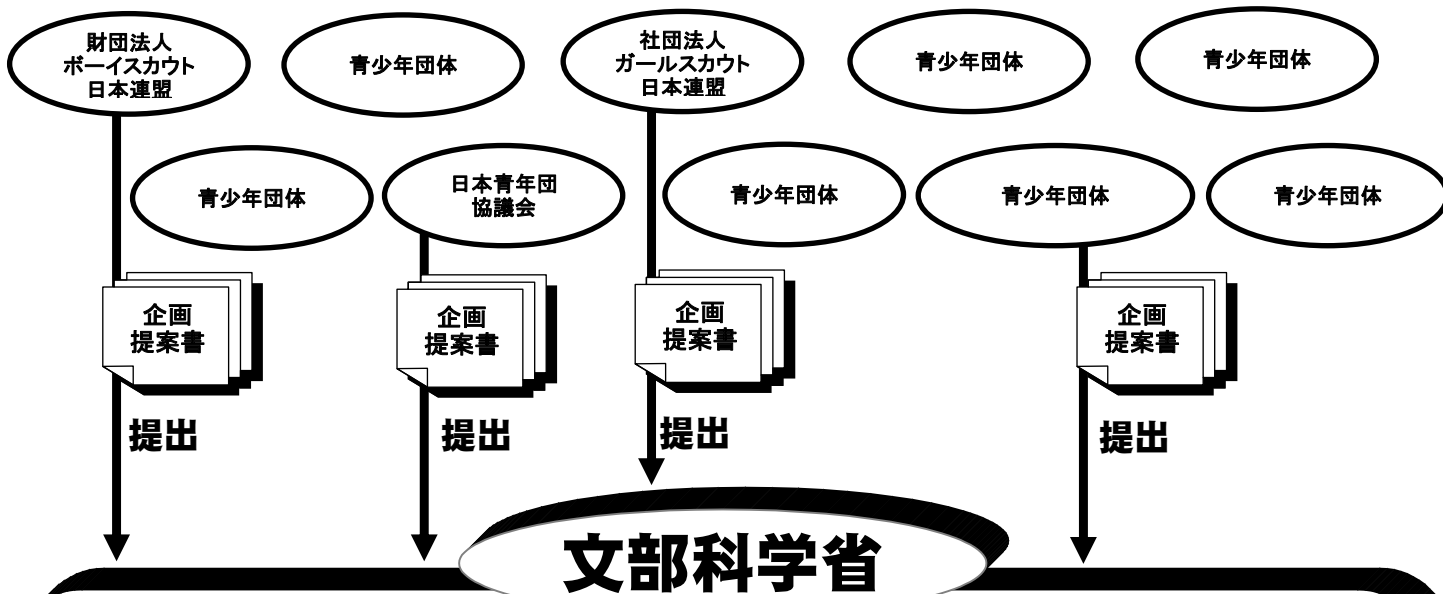
公募期間

平成21年1月29日(木)～平成21年2月16日(月) 19日間

対象

全国規模の青少年団体(全国に支部などの活動拠点を持つ団体等)

公 募



【評価方法】

評価は下記の各項目について次の評価基準による段階評価とし、事業企画評価委員会の総意として各項目の得点を決定し、その合計を当該提案事業の得点とし、一定得点以上の事業について選定する。

〔評価基準〕

大変優れている=5点、優れている=4点、適当=3点、やや劣っている=2点、劣っている=1点

【評価の観点】

事業内容に関する評価

- ① 事業の目的・計画が具体的に設定され、実現性・妥当性があるとともに、委託者の意図と合致していること。
- ② 事業推進の方法、評価の方法等が具体性・的確性・実効性に優れていること。
- ③ 事業の内容から、高い成果を得られることが期待できること。
- ④ 事業実施による成果及び課題に基づき、将来的に継続性や発展性が期待できること。
- ⑤ 提案内容に対して、妥当な経費が示されていること。

提案書送付

4団体から提出された企画提案書の送付

事業企画評価委員会

・委員3名(大学教授1名、民間団体代表者2名)

事業企画評価委員会(会議)の開催

出席者: 事業企画評価委員3名

内 容: ① 討論形式による合議審査

② 各委員の評点の記入

③ 評点の集計(評点集計表の作成)

④ 評点集計表に基づき、採択事業の決定

採 択

財団法人
ボーイスカウト
日本連盟

日本青年団
協議会

社団法人
ガールスカウト
日本連盟

不 採 択

【不採択理由】

- ・提案された事業は、既に当該団体の自主事業として実施されており、青少年元氣サポート事業の趣旨と合っていない。
- ・事業の目的・計画が具体的に記載されておらず、実現性・妥当性が低い。

青少年団体

中央教育審議会～次代を担う自立した青少年の育成に向けて～
(平成19年1月30日)

多様な人々との交流が自己を客観視できる力や社会性を培うことから、より多くの青少年が地域の青少年団体に参加するなどして多様な交流体験を積むことが大切である。一方、少子化等の影響もあり、各青少年団体においては会員数等の減少傾向が続き、その多くが将来に不安を抱えている。このため、青少年団体については、より多くの青少年が団体での活動を通じた成長の機会を得られるよう、青少年の参加を促すとともに、**青少年の現代的課題に対応した魅力ある活動を提供したり、少人数でも行える教育効果の高い活動プログラムを開発**するなど、各地域の現状に対応しつつ活動の充実を図ることが望まれる。

青少年育成施策大綱
(平成20年12月12日青少年育成推進本部決定)

○ 子どもの心と体の健全な発展を促すため、**青少年教育施設や学校、地域の青少年団体、NPO等の様々な場における、環境学習・自然体験、集団宿泊体験、奉仕体験、スポーツ活動、芸術・伝統文化体験、といった様々な体験活動や異世代間・地域間交流等の多様な活動の機会の提供**について推進する。

○ 青少年が、自然体験や集団宿泊体験等の体験活動を行える青少年教育施設等の場の整備を推進するとともに、**青少年教育施設と地方公共団体、学校、青少年団体等地域の関係機関の連携により、地域の教育力を向上させる取組を推進**する。

学習指導要領の改訂(平成20年3月)

体験活動の充実

○ **発達の段階に応じ、集団宿泊活動、自然体験活動、職場体験活動などを推進**(特別活動等)

体験活動の充実が主な改善事項としてあげられているなか、実際に体験活動を行うための「総合的な学習の時間」の授業時数は、各教科で知識・技能を活用する学習活動を充実することが必要であることから、国語や理科等の時数を増加し、総合的な学習の時間の時数は削減。

「青少年元気サポート事業」による 青少年教育活動の活性化！

～青少年や青少年団体に「元気」をもたらす意欲的な活動プログラムの開発を促し、その成果の普及を図ることにより青少年教育活動等の活性化を図る～

青少年元気サポート事業概要・成果等①

アウトドアチャレンジ【実施主体】(財)ボーイスカウト日本連盟

【概要】

他団体と連携しながら、一般の子どもたちを対象とした野外技能の修得度を段階的に評価する制度を構築することを目指して、事業初年度である平成21年度については、ゲーム感覚で行える「手旗通信」や「もやい結び」等を検定プログラムのメニューとした「野外技能検定入門編」を実施した。(次年度以降は、「初・中級編」、「上級編」を実施予定。)

【実施回数】3地域 各1回 計3回

【参加者数】759人

【成果物】

- ・野外力検定ガイドブック
- ・野外力検定ガイドDVD
- ・平成21年度アウトドアチャレンジ実施報告書

【成果等】

・「日本社会における体験活動については、参加させることが目的となっているという現状があり、今後は、体験活動に参加させるまでの過程の重要性を認識してもらうことや参加後の自己成長につなげていくためのフォローアップを強化する取組みを行っていく必要がある。」という課題について、プログラム開発に携わった他団体と、共通認識が図られ、また、他団体と共同活動を行う際のノウハウが蓄積された。

・全国に青少年教育施設を設置する(独)国立青少年教育振興機構との間で、更なる協力体制が生まれる機運が高まり、お互いに持っている活動プログラムの共有や活動をする際の運営スタッフの連携などを図ることとなった。

キッズコミュニティー【実施主体】(財)ボーイスカウト日本連盟

【概要】

知的障害や発達障害等のある児童と健常児童とが共に自然体験活動等の体験活動に取り組むことができるための一般の子どもたち向けのプログラムの開発・実施及び活動に関わる青少年団体などの指導者を対象に、ガイドブックを活用した講習会等を実施した。

【実施回数】

・体験活動 7地域 計104回 ・講習会 10地域 各1回 計10回

【参加者数】9,102人

【成果物】

- ・発達障がいのある青少年を支援する指導者のガイドブック
- ・中高生のためのジュニアリーダー活動ハンドブック
- ・平成21年度キッズコミュニティー実施報告書

【成果等】

例えば、秋田県では、子ども同士の振り返りと並行し保護者などを含めた振り返りの会を実施し、臨床心理士や市教育研究所と指導面について話し合いを持った。このことで保護者同士の仲間意識が生まれるとともに、地域の行政から、子どものインフォーマルな教育について高い評価を受けたことにより、事業の継続と青少年教育活動を行う諸団体を牽引して行って欲しいとの要望があり、今後も地域の福祉関係者と連携しながら、独自の事業として継続する方向で検討している。

【ボーイスカウト本来の活動】

班制(小集団(6人~7人)による自発的活動教育、進歩制度(進級のための技能と個人の興味を伸ばす課目(53種類×6項目=318項目)による少年たちの成長に合わせ、個人を伸ばしながら、社会人として必要な資質をひとつずつ身につけさせる)プログラムの実施、野外活動を取り入れた教育などを通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与する。

(1)回数:2,620回 (2)隊数:10,901隊 (3)加盟員数:約15万7千人 (平成22年3月31日現在)

青少年元気サポート事業概要・成果等②

少女と指導者のための元気サポートプロジェクト【実施主体】(社)ガールスカウト日本連盟

【概要】

従来取組んでいなかった子どもたちのための自己肯定感を高めるためのプログラムの開発・実施を他団体と連携しながら行い、同時にそのプログラムを展開するため、ガールスカウトの指導者を対象とした研修等を実施した。

【実施回数】体験活動等 8地域 17回、フォーラム 3地域 各1回 計3回

【参加者数】2,552人

【成果物】

- ・少女と指導者のための元気サポートプロジェクト報告書
- ・少女たちが自ら考え行動できる人となっていくためのガイドブック

【成果等】

- ・調査結果を使用し、体験活動の重要性を訴えかける記事が教育雑誌に掲載され、この事業が広く周知された。
- ・姫路市立の中学校から、自校の調査用紙作成のために、この事業で開発した調査用紙の提供依頼があった。
- ・この事業による科学的証明に基づき、自信を持って地域で団体活動の意義を説明したり、指導できるようになった。

【ガールスカウト本来の活動】

少女の心身の発達に寄与する事業(野外キャンプ、話し合い活動、難民支援活動、日韓交流事業)、指導者の育成(トレーナーセミナー、リーダー養成講習、指導者研修、日英交流事業)、国際理解に関する事業(日韓交流事業)など、「自己開発」、「人とのまじわり」、「自然とともに」を教育の「3つのポイント」として、活動に取り組み、少女たちの実行力、コミュニケーション能力、責任感を身に付け、少女たちがよき市民となることができるように立派な品性と奉仕の精神を養い、国際間の理解親善を深めるとともに少女たちに興味深い楽しみを与えつつ技能の習得を図る。

(1)団数:1,266団 (2)加盟員数:約4万3千人 (平成22年3月31日現在)

青年活動推進コーディネーター養成事業【実施主体】日本青年団協議会

【概要】

従来取組んでいなかった多様な地域活動に取組もうとしている青少年団体や地域団体等の連携を推進するために青年団員を中心に一般青年を対象としたコーディネーターの養成研修等を実施した。

【実施回数】3地域 各1回、中央 1回 計4回

【参加者数】234人

【成果物】

- ・中央フォーラム報告書

【成果等】

この事業を契機として、各地で、他団体、商工会、地元商店街、行政との交流が進み、それらとの連携が各地で進んだことにより、各種取組が展開されている。このことにより、地域の子どもと大人の結びつきが深まったり、町おこしとなったりするなど地域の活性化が図られている。

今後、それぞれの取組が全国各地で展開されるよう、さらなる活動の連携及び情報提供を図っていく必要性を確認できた。

(例)

・宮崎県日南市では、行政、学校、他団体などと連携してペットボトルのキャップの回収運動を展開し、世界の子どもたちに約1,400人分のワクチンを送った。

・徳島県那賀町では、全国的にも珍しい「吹筒花火」の伝統継承への取組みを始めた。コーディネーターが中心となって、地元の商工会、町役場、保存会、婦人会などと連携を図りながら、「吹筒花火」と平成19年から既に伝統継承として取組んできた「人形浄瑠璃」などを利用して町おこしとなるような観光イベントを立ち上げ、地域の活性化に繋げる計画を進めている。

【青年団本来の活動】

青年の生活環境の向上と全国の青年団組織の支援を目的に、リーダー研修、文化・スポーツ活動の推進、地域に子どもたちの居場所をつくる取り組み、国際交流、男女平等を実現する取り組みや、日本青年団新聞の編集・発行等を行う。

(1)団数:43道府県団 (2)団員数:約15万人 (平成22年3月31日現在)